

リスクマネジメント研究部会 / 品質評価手法研究部会

緊急時対応訓練モデルシナリオの 紹介と模擬訓練

リスクマネジメント研究部会 部会長

上倉 秀之 かみくら ひでゆき

 株式会社セノン 取締役常務執行役員
認定ファシリティマネジャー


品質評価手法研究部会 部会長

野瀬 かおり のせ かおり

 ファシリティマネジメント総合研究所
認定ファシリティマネジャー


災害、事件、事故などファシリティを取り巻くリスクが顕在化した際には、ファシリティマネジャーは施設の運用管理責任者として対応の中心的役割を果たすことが多い。また、組織対応力向上のための訓練の企画・実施者となることもある。一方で東日本大震災から5年が経過し、ノウハウの伝承が課題となっている。今回の講演では2つの部会が合同で、緊急時対応訓練モデルシナリオを紹介するとともに模擬訓練を実施した。手順を確認するのではなく、状況の変化に対応する判断力や情報を読み解く力を養う訓練である。

今回取り上げたのは、災害が発生し、初動段階（人命救助・二次災害防止）がひと段落した後の災害対策本部の対応を、机上演習方式で訓練する場合のモデルシナリオである。

事前に①訓練目的の明確化②想定の見直し③対応組織の現状④任務とファシリティマネジャーの役割⑤被害想定とシナリオの作成⑥状況付与の方法と、小道具を準備する。対応組織はインシデントコマンドシステムの5つの組織機能（指揮調整・運用対応・計画情報・調達管理・財務総務）を有するように編成することが望ましい。対応組織を1班2名以上の編成にして相談しながら進められるようにする。進行役が被災状況、行動・決心に関する状況を口頭あるいはカードを使って付与し、プレイヤーの行動・決心の判定および問い合わせ対応を行う。状況付与は時間軸と場所、内容のバランスに考慮し付与すると良い。なお、情報カードを渡す

よりも、進行役が読み上げた方が訓練の難易度は高くなる。時折振り返りのミーティングを設け、情報収集や意思決定、行動に関する課題や工夫について意見交換を行う。慣れてきたら付与情報を増やし、喧騒とプレッシャーを感じる状況を演出する。

なお訓練は準備が大切だが、あまり作り込まないことも肝要である。目的は組織の対応力向上であり、訓練の高度化ではない。また初めから難易度が高い状況での訓練を行うとアイデアが出なくなり、参加意欲が低下してしまう。訓練は反復して実施することが大切であり、興味を持って工夫する喜びを演出することも大切である。

今回は参加者をグループに分けて模擬訓練を体験していただいた。次々と変わっていく状況の中で災害対策本部が有効に機能するためには、平時に訓練を重ねておくことが不可欠である。訓練資料や備品カード、状況付与カードなどは、近々JFMAのホームページで公開するので、訓練にご活用いただきたい。



訓練の様子/状況をカードで付与し、とるべき行動や判断を紙に書き出す